

②起業塾、匠講座

中心市街地にある4条通り商店街では、年間を通して「4条通り活性化事業」を実施していますが、平成24年9月から25年1月までに、商店街の店舗を会場にして月1回の「匠講座」を実施しました。この事業は、店主などが講師となり、専門知識や技術を市民に紹介することで、市民に商店街に足を運んでもらう活性化に寄与する事業です。また、若者の起業を促すための「起業塾」も同時期に5回開催しており、実践的な知識やノウハウなどを伝えながら、新規開業者の育成を図っています。これらの試みは、これで終わるのではなく、今後も引き続いて商店街が持続的に取り組んでいきます。



・起業塾開催の様子

③いわみざわ駅まる。

「いわみざわ駅まる。」は、岩見沢市観光振興ビジョンに基づき、岩見沢複合駅舎を中心とした周辺施設を活用しながら、「賑わいのあるまち」の創出をめざし展開しているプロジェクトです。活動は平成23年より実施しており、お宝、写真、音楽、歴史、スタンプラリーなどを通して駅と鉄道の魅力の再発見、新たな情報発信などを行っています。

平成25年5月には「一般社団法人いわみざわ駅まるプロジェクト」が設立され、複合駅舎内に設置された「岩見沢観光物産拠点センター iWAFO (イワホ)」において、観光案内や物産品を販売しています。また、イワホでは岩見沢の様々な情報をホームページやブログ、駅まるTVなどを通じて情報発信しています。



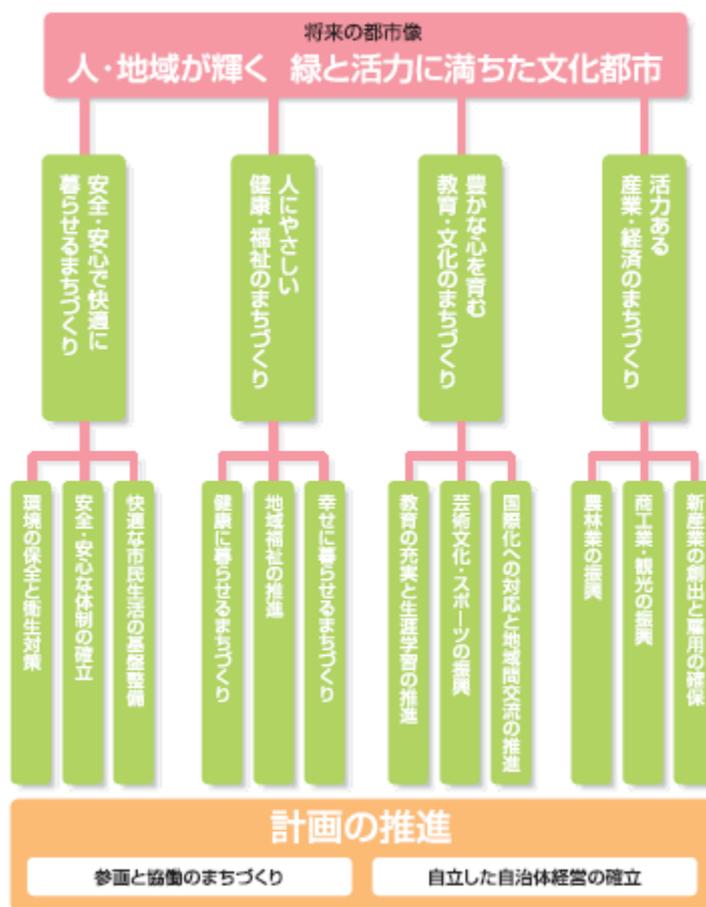
・iWAFO (イワホ)

(2) 都市計画との調和等

1) 新岩見沢市総合計画

新岩見沢市総合計画は、市政運営と市民活動の指針を示すもので、計画期間は平成20年度を初年度とし平成29年度を目標年度としています。総合計画の基本構想では、将来の都市像を「人・地域が輝く 緑と活力に満ちた文化都市」と定め、基本計画は基本構想の実現を目指すために必要な施策を明らかにしています。基本計画の産業・経済のまちづくりでは、商工業・観光の振興として①活力ある商工業の形成、②中心市街地の活性化、③魅力ある観光の展開を示し、まちなか活性化に向けた施策の方向としては商店街の支援、まちなか居住の推進、複合駅舎への公共公益施設の位置づけと市民・学生の文化活動への支援、交通アクセスの利便性向上と歩道整備やバリアフリー化の推進を示しています。

新岩見沢市総合計画の施策体系



2) 岩見沢市都市計画マスタープラン

岩見沢市都市計画マスタープランは、将来都市像として「みどりと人のつながりで作る安全・健康・文化都市いわみざわ」としていますが、これは新岩見沢市総合計画に示された都市像と整合あるものとなっています。計画期間は、長期的な都市づくりの基本方針を示すもので平成18年度から37年度までの20年間としています。

都市計画マスタープランでは、目指すべき方向性の一つとして「まち歩き文化」を育むこととし、「コンパクトで便利な都市」としていくことを示しています。

■『まち歩き文化』を育む。

コンパクトで便利な都市を目指します

市民の生活利便性を高め、環境への負担が少なく、除排雪など都市の維持管理コストも少ない、適切な土地利用によるコンパクトな都市をめざします。

- 市街地の拡大を抑制し、自然環境と農地を保全するとともに、市街地に残るオープンスペースを活用し、総合的な防災力をたかめます。
- 公共施設をまちなかに集約し、どこからでも利用しやすくします。

快適なアクセスを確保します

車を運転する人もしない人も気軽にまちなかに出ることができるよう、多様な交通手段が連続する環境づくりをめざします。

- 駅前通と都市内ループ道路を整備するとともに、公共交通システム、歩行者・自転車道路ネットワークの形成を進めます。

まちなかの魅力をたかめます

多様な魅力を発掘し、それらをつなげ、まちなかを志向する市民にとって住み心地がよく、訪れる人にとってもぶらりと回遊が楽しめるまちなかをめざします。

- まちなかの土地を利活用し、定住条件を整え、まちなか居住を進めます。
- 駅周辺の整備を進めるとともに、魅力あるスポットや交流の場をつなぐ回遊ネットワークを形成します。

歴史的な資源を活用します

鉄道のまち、教育のまち、農業のまちとして発展してきた資源を市民活動を支える場として活用し、都市の魅力を高めていきます。

- 駅北のレールセンターなどの産業施設を市民活動の場として再生します。
- 高校、大学と連携して市民の生涯学習や交流の場づくりを進めます。

また、土地利用の方針として、「中心市街地の活性化」について次のことを示しています。

【中心市街地の活性化】

- 商業の活性化だけでなく、都市福祉施設や住宅の供給による居住環境の向上など一体的な取り組みにより、中心市街地の活性化を図ります。
- 沿道サービスゾーンは原則として現在の範囲に収めます。
- 敷地周辺の緑化、屋外広告物の規制、建物の色彩誘導灯、沿道サービスゾーンの景観向上を図ります。

3) 岩見沢都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（平成21年10月変更）

北海道は「岩見沢都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」について、都市づくりの基本理念や主要な都市計画の決定の方針などを、平成32年の姿として策定しています。

■都市づくりの基本理念

- ・都市づくりとしては、人口減少が避けられない状況であることから、今後は市街地の拡大を抑制し、現在の都市基盤を活用しつつ既成市街地の充実を図り、環境への負荷を軽減するなど、都市の維持管理コストを抑制した都市経営を可能とするため「将来に向けて都市構造を再構築する」ことを目標としています。
- ・中心市街地については、岩見沢市中心市街地活性化基本計画に基づき、街の顔となる駅周辺地区の環境整備を進め、「まちなか回遊、まちなか居住、まちなか雇用の促進」を活性化の目標としています。
- ・将来の市街地の枠組みと都市構造を明確にして、都市施設の整備や公共施設の適正配置等により、良好な市街地の形成を進めていく必要があるものとしています。また、中心市街地の活性化を推進するとともに外縁部の市街化の抑制により、コンパクトなまちづくりを進めていくこととしています。

■主要用途の配置の方針

○住宅地

- ・既存の中心商業業務地は都心住宅地とし、中高層住宅を主体として商業・業務施設等が適切に複合した利便性の高い都心居住としての住環境の形成を図ります。

○商業業務地

- ・JR岩見沢駅を中心とした中心商業業務地は、これまで南空知圏における商業業務の中心地区としての役割を果たし、多くの商業業務施設が集積している地区であり、今後も、商業業務系施設（IT関連を含む）の集積を図るとともに、都心居住などの機能を備えた複合施設や駅前通などの環境整備等による地区の魅力の向上を積極的に図ります。

■土地利用の方針

○土地の高度利用に関する方針

- ・中心商業業務地の岩見沢駅前通沿道地区については、駅前通の拡幅整備に伴い、駅前地区として交通・情報等の拠点にふさわしい商業・業務に加え公共公益、居住等の都市サービス機能が充実する多機能型生活街区を形成するため、市街地再開発事業等による土地の高度利用を図ります。

○用途転換、用途純化又は用途の複合化に関する方針

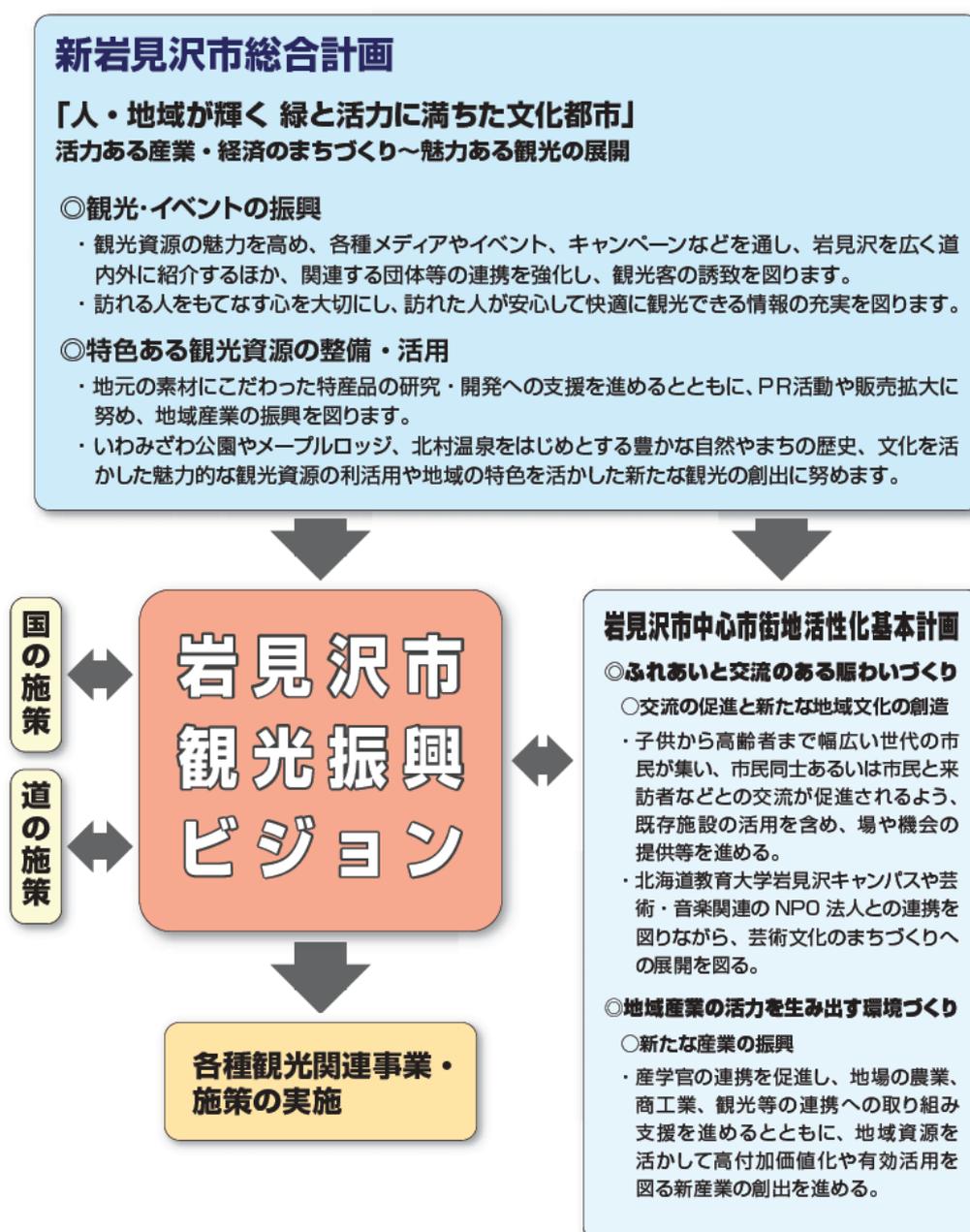
- ・岩見沢駅周辺地区については、複合駅舎や南北自由通路当の整備による拠点性を高め、駅北地区の土地区画整理事業により商業・業務、都市サービス機能の形成に向けた用途の複合化を検討します。
- ・中心市街地及びその周辺地区については、少子高齢社会等に対応した都心居住を促進する地区として、住環境に配慮した土地利用への用途転換を図ります。

(3) その他の事項

1) 岩見沢市観光振興ビジョンとの整合

岩見沢市観光振興ビジョンでは、岩見沢には多くの人を招く観光資源となりうる魅力ある「たから（岩見沢市の観光施設、農作物、飲食店、歴史遺産、人材など）」が多数存在し、この「たから」をより多くの人を知り、楽しむことを「観光」と考えて、観光振興の取組を進めていくこととしています。そして、こうした「たから」を従来の観光に携わっている人に加え、農業・商工業・教育など多様な分野の人々と連携を進めながら活かして、市民とともに「新しい観光」の取組を進め、地域の活性化につなげていくこととしています。

また、観光振興ビジョンは、まちづくりの指針である「新岩見沢総合計画」及び「岩見沢市中心市街地活性化基本計画」を踏まえて策定しています。



観光振興ビジョンでは、その行動計画の中で今後の観光プロジェクト創出の呼び水となる「キックオフ・プロジェクト」を実施することとしています。そのキックオフ・プロジェクトの一つとして位置付けているのが岩見沢駅周辺でのプロジェクトであり、その概要は次の通りです。「いわみざわ駅まる。」の取り組みは、これに基づき実施されています。

概要	グッドデザイン大賞を受賞したJR岩見沢複合駅舎及び駅東市民広場公園にて観光振興ビジョンの4本柱（「農・食」「自然」「歴史・文化・伝統」「芸術・スポーツ」）を連携させたプロジェクトを行い、市民に岩見沢のよさを再発見してもらおうと同時に観光客に対して岩見沢を積極的にアピールする。
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅東市民広場公園の花と緑を訪れた人に楽しんでもらう。 ・ 岩見沢駅やその周辺の「たから」を活かした新しい観光プロジェクトの事業内容・実施方法等を検証し、今後の取組につなげていく。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岩見沢市の農産物や昔の行商をイメージした海産物の販売を行い、駅前のにぎわいを創り出す。 ・ 訪れた人に岩見沢の貴重な鉄道遺産のよさを感じてもらおう。 ・ 岩見沢複合駅舎及び駅前などで市内外のアーティストによるアコースティックライブを行う。また、写真や絵画の展覧会（魅力発見コンテスト）を行う。

2) 中心商店街における除排雪活動

岩見沢市は道内でも有数の豪雪地帯であり、平成23年から24年の冬期は記録的な大雪に見舞われました。積雪による悪路は、道路交通に障害をもたらすほか商店街における購買力低下を招き、まちの経済活性化にも影響を与えています。

このようなことから、本市では「岩見沢中心商店街除雪協議会」を組織し、地域が負担金を出しながら官民の連携により中心商店街の雪処理活動を行っています。

